

SATSUMA



「鹿児島教区寺族青少年連盟主催
ボウズミーツフェス2022」
(令和4年10月2日開催)

新型コロナウイルス感染拡大により、
3年ぶりの開催となった。
(関連記事4面)



鹿児島教区教務所長 森田 順照
もりた じゅんしょう

新しい年を迎えました。本年もよろしくお願い申しあげます。

さて、本年は、親鸞聖人の慶讃法要をお迎えする年となります。

教区においては、昨年の7月から9月にかけて各組を巡回し、「鹿児島教区・本願寺鹿児島別院 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要 法要コンセプトに関する説明会」を開催いたしました。この法要コンセプトには、宗派の慶讃法要趣意書付帯事項に準じ、三つの重点目標と、将来を見据え教化体制の構築につなげていく重点推進事項を要としております。特に重点目標の二番目には、「すべての人に向けた伝わる伝道を推進する」とあります。

鹿児島島の地は、島津藩の政策により明治9年までの約300年にわたり念仏禁制が行われてきました。当時の念仏者は厳しい弾圧を受ける中、お念仏を称え守りさらに脈々と子や孫に伝えてこられました。子や孫たちも弾圧を受ける中、み教えを守り伝えることの

大切さを感じ取って行かれたのでありましょう。しかし、現代は特に若い方々の宗教離れが進み、み教えが伝わらないことが課題となっています。だからこそ、社会状況や人々の意識に応じた伝道方法を工夫していかねばなりません。平均寿命から見れば、今、30歳以下の方々は、50年後の御誕生900年法要をお迎えすることができま

すが、この度の法要を機縁として、若い人達にみ教えが伝わる絶好の機会とならなければ、次の慶讃法要に繋がらないと思われれます。先人たちがそうされたように、今度

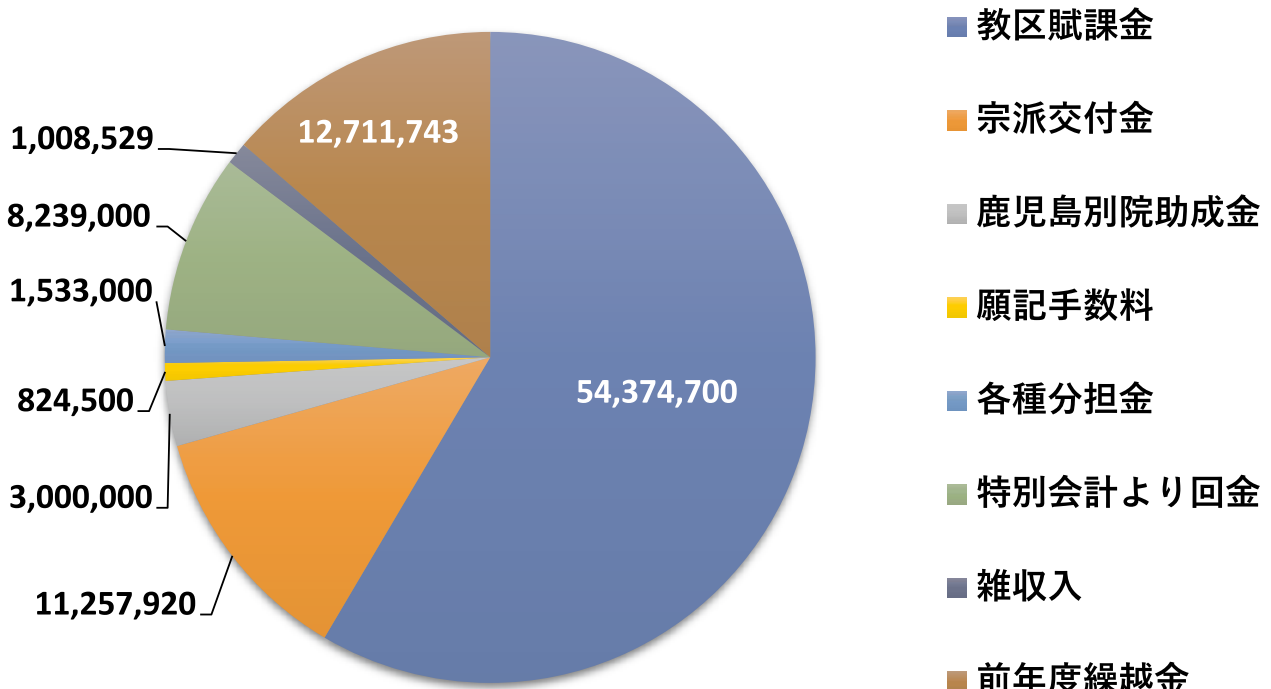
は私たちが、僧侶・門徒として、次世代にお念仏を伝えていく大きな責務があります。

これからの社会を考えれば、少子化の進展と都市への人口移動により、過疎地域では地域社会の維持が困難になるなど寺院が直面する社会環境は劇的に変化していきます。今まさに皆様とともに「伝わる伝道」「開かれた寺院」について考え、具体的な取り組みを始めてまいりましょう。本年も何卒ご指導ご鞭撻の程お願い申しあげます。

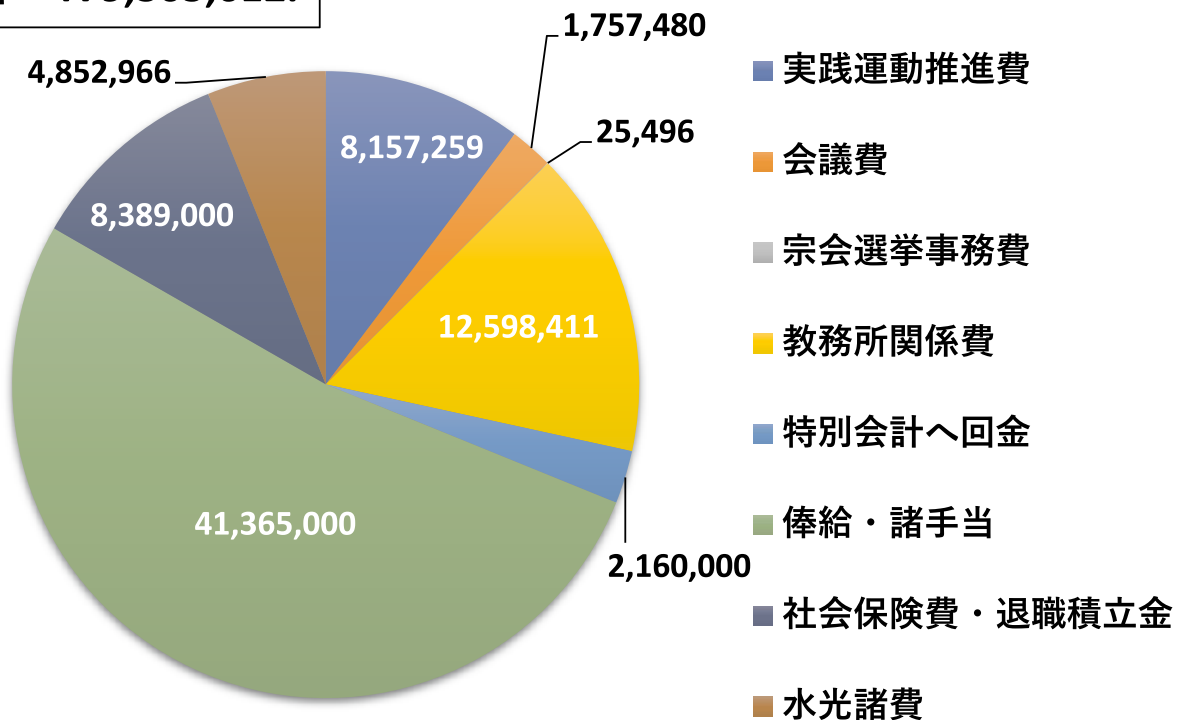
合掌

令和3年度 鹿児島教区一般会計決算

歳入 ¥92,949,392.-



歳出 ¥79,305,612.-



詳細については、決算書をご参照ください。

親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年 慶讃法要

2023(令和5)年は、宗祖親鸞聖人のご誕生から850年目にあたります。また、その翌年には、親鸞聖人が『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』を著され、浄土真宗を開かれた「立教開宗」から800年を迎えます。

鹿児島教区・本願寺鹿児島別院では、お念仏をいただく一人ひとりがそのご縁を共に慶び、み教えがさらに多くの人々へ伝わる機縁とするために、2024(令和6)年11月6日より9日までの4日間、『親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要』を勤修します。

慶讃法要及び関連行事を進めるにあたり、鹿児島教区・本願寺鹿児島別院に推進委員会が設置され、法要スローガンと3つの「重点目標」、さらに将来を見据えた教化体制の構築につながる「重点推進事項」が策定されました。また、昨年実施しました法要コンセプトの各組説明会において、皆さまから賜りました貴重なご意見をもとに、今後も法要円成に向けて取り組んでまいります。

これまでの成果と課題を踏まえつつ、教区・別院一体となった「伝わる伝道」を推進し、「あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」べく、共に進めてまいります。

皆さま方のご理解とご協力をお願いいたします。

鹿児島教区・本願寺鹿児島別院

「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」

法要期日 2024(令和6)年11月6日(水)より9日(土)〈4日間〉

法要スローガン 「ご縁を慶び、お念仏とともに」
～このよろこびが、私の生きる力に～

- 重点目標**
- ①大きな感動につながる「法要」のあり方を工夫する
 - ②すべての人に向けた「伝わる伝道」を推進する
 - ③仏教の精神に基づく社会実践を通して、「開かれた寺院」をめざす

重点推進事項 教区・別院における将来を見据えた、教化体制の構築を進める

..... 慶讃法要 鹿児島教区・本願寺鹿児島別院推進委員会

委員長：平島 義仁

副委員長：正覺 智成

委員：井上 從昭 本 正治 福嶋 達也 三島 慶昭 井上 博孝

宮地 円 朝倉 文昭 加藤 信行 椋 法久 原田 康志

白坂 浩史 岩切 順孝 田嶋 弘典 笠置 信行 茶屋 征夫

西村 光行

..... 法要事務所

鹿児島教区教務所・本願寺鹿児島別院
森田順照(教務所長・輪番) 他事務職員

Bouz Meets Fes 2022

10月2日、教区寺族青少年連盟主催「Bouz Meets Fes 2022」が開催された。

3年ぶりの開催となる今回は別院を飛び出し、新たにできた商業施設「センテラス天文館」内の広場で行われた。

ステージではフラダンスや県内アーティストによる演奏、雅楽、声明が行われた。声明の最後には、出演僧侶より合掌の声がかかると、来場者が一同に合掌する光景は印象的であった。

会場内では県内各地の特産物販売・もつたない野菜市・こども屋台・大島紬着付体験の店があり、僧侶ブースでは、腕輪念珠作り体験、一筆写経、法衣の着用体験、坊主BAR、来場者の悩みや思いを聞かせていただくグチコレがあり、多くの来場者で賑わった。

はじめての取り組みである「グチコレ」では、予想以上に若い世代の方々から愚痴や悩みを聞かせていただくことが多く、これまでご縁のなかった方々とのきっかけづくりには非常に効果的な取り組みであると感じた。

今回も、地元の企業や業者・団体の協力のおかげにより開催することができ、多くの方々に来場いただき盛大に賑わった。

また、別院を飛び出しての開催は、より多くの方々へのご縁づくり活動になったと思われる。

次回の開催を希望する声も多くあり、期待に込められるよう開催に向けて取り組んでいきたい。



「御同朋の社会をめざす運動」教区委員会

中央委員 福嶋 達也

今期2カ年のスタートにあたり、活動全般の示唆となる龍谷大学社会学部・猪瀬優理教授の「持続可能な仏教寺院へ」の冒頭箇所を諸会議において紹介しました。

「皆さんは、これからのお寺をどのような場所にしていきたいですか？法要・法事をする場としてのお寺の重要性は変わらずにあるとしても、毎日の暮らしの中で人びとの仏教に対する『信仰』やお寺への『信頼』が確かに育まれていなければ、これからの社会のなかで、お寺を必要とする人はどんどん減っていかもれません。いま、お寺の持続可能性が問われています」（『宗報』2021年11・12月合併号）。

また、仏法を私自身と私を取り巻く社会のなかでどのように「表現」していくかの「実践」の場が寺院活動と言えましょう（参照『こえんvol.5 平和ってなに？』）。

私自身は真理である仏法を不十分にしか表現できていないのでしようが、仏法に乗せられて（支えられて）、力を与えられて諸課題に取り組んでまいりたいと思います。

教区委員会として、2月の中央委員会に意見具申を提出します。内容は「過去帳開示問題」を受けた問題提起となります。

「過去帳」を前にした実践も「表現」であると捉え、課題の共有化を推進してまいります。

「御同朋の社会をめざす運動」教区委員会

同朋部門長 藤原 徹

「学ぶ」ということには、問題「を」学ぶという姿勢と、問題「に」学ぶという二つの姿勢があります。問題「を」学ぶということは、どういった問題があるのかを知るという学び方です。一方、問題「に」学ぶということとは、知識を積み重ねることにとどまらず、問題に対する自分の考えや姿勢などが点検させられることです。

宗門においては、今日まで部落差別問題への取り組みを通して、親鸞聖人の教えに生きるこの意味を問い直す営みを続けてきましたが、十分に浸透しているとはいえません。それは、学び方において問題「を」学ぶ姿勢にとどまり、問題「に」学ぶという姿勢が不十分であったといえると思います。そして「学んだ」ということは「わかっていなかった」という気付きを積み重ねていくことでもあります。「わかったことになっていた」ことへの驚きや恥ずかしさが学んだことの証ともいえるのではないのでしょうか。しかしその気付きは、学び続けなければ生まれません。私自身が変わらざるを得ない言葉、出来事との出会いが必要です。

ですから、学び続けることを大切にしたいと思います。

「御同朋の社会をめざす運動」教区委員会

寺院振興部門長 井上 昌隆

寺院振興部門のこれまでの活動と成果を振り返りますと、連研に関する所掌が中心となる取り組みがなされたものでした。

一方で、各組連研がコロナ下の影響を受け、推進していくことが難しいとの報告もあり、今後の連研開催に向けて組担当者との協議会などを強化すべきだと考えます。

また、当部門は7年前より連研部門から寺院振興部門へと改称されたことにより、これまで部門員と協議していく過程で、何を取り組みの目的とするのか、当部門の方向性を確認していく作業が繰り返し行われたこととなりました。

本山のHPには、令和2年度「寺院振興支援対策（過疎対策）推進ガイドライン」が策定されています。この寺院振興に関する事項は、「過疎対策」だけではないでしょう。各組、各寺院によって様々な違いがあります。こうしたそれぞれの寺院にとっての振興を考え、推進していくことが当部門の重要な役割になると感じています。

現在、教区の運動テーマに『今、私にできること』とお法が伝わる寺院活動『が掲げてあります。まさにコロナ下において寺院の活動形態も変化しているなか、さまざまな角度から推進を図る活動と取り組みをしていきたいと思っています。

「御同朋の社会をめざす運動」教区委員会

次世代部門長 櫻井 惇紀

宗門の抱える課題の一つに、み教えを継承していくことがあります。かつて、継承は親から子へと家庭の中で営まれてきました。しかし環境の変化もあり、今では家庭内での継承が難しくなっています。

宗門はこの課題に対して「現代社会に広がる教学・伝道態勢の構築とみ教えに生きる人の育成」を打ち出し、「子ども・若者ご縁づくり」運動を始めました。教区次世代部門もこの流れの中で始まっています。

「子どもから若者、そして大人へと生涯を通して教えが伝わる道筋(伝道)をつくる」ためにどんな事が必要か、今までの取り組みを振り返りながら、伝え方を変化させていくことが必要だと受け止めています。

運動の方向性として、若い人が置かれている現実を学び阿弥陀仏の救いを伝えていくこと、また様々な年代の人々がみ教えと共に集うお寺のあり方をめざすこと、そして教区内の各寺院が支え合う意識を持つことを軸に進めていければと思います。

10年後、20年後、またもつと先の時代になったとき、寺院やみ教えはどうなっているか、そのことを考えながら取り組んでいきたいと思っています。

「御同朋の社会をめざす運動」教区委員会

重点プロジェクトリーダー 星野 元興

「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」を推進するために、重点プロジェクトリーダーが配置され4年目を迎える。

次年度で任期最終年度を迎えるが、重点プロジェクトリーダー就任直後にはじまった新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により思うような活動につながらなかったのは残念なところである。しかし、コロナ下においても組プロジェクトリーダーの選任、研修会の実施など限られた活動ではあったが歩みを進めることが出来た点は評価して頂きたい。

次年度は、「貧困の克服」という原点に立ち返り、一人ひとりが取り組める活動を中心に推進していきたいと考える。

また、鹿児島別院を中心に準備を進めているフードバンク事業も大きな事業のひとつと捉え、教区内寺院にも協力を求めている。

社会環境が激変する中、誰一人取り残すことのない持続可能な活動となるよう頑張っていく。

保育連盟

制作キット

「阿弥陀さまのお浄土を学びましょう」

保育連盟加盟園に通う園児は、日常の園での仏参などを通して阿弥陀さまとの尊いご縁を結んでいます。園児の若い保護者の世帯においては、ほとんどお仏壇が見られません。

そこで、鹿児島教区保育連盟では家庭でも阿弥陀さまに手を合わせることができるようにとの思いから「阿弥陀さまのお浄土を学びましょう」を制作いたしました。

これは、幼児だけでなく広く各寺院の子ども会活動などでもご利用をいただけるものです。

幼少年並びに若い保護者世帯への尊いご縁作りの教化教材として、ぜひご活用いただきたく存じます。

制作キット「阿弥陀さまのお浄土を学びましょう」



【販売価格】
1セット(10枚)… **3,500円**(税込)

【お問い合わせ】
鹿児島教区保育連盟

少年連盟

スキルアップ研修会



教区少年連盟主催による「スキルアップ研修会」を、8月25日・10月27日・12月22日に、ハイブリッド形式で開催した。

本研修会は、子ども会例会の進め方についての情報共有並びに指導者のスキルアップにつながるよう、子どもに関わる指導者また保護者を対象としたもので、教区内少年連盟7単位の指導者にご参加いただいた。内容として、教区少年連盟役員の代表が、子ども向けの法話をした後、参加者へ向けてレクリエーション提供をするといった流れであった。

参加者からは「一緒に楽しめて良かった」

「指導者の成長は、子どもの成長につながる」「シンプルなゲームを色々教えてほしい」等のお声をいただいた。

今年度から初めての試みということもあり、試行錯誤しながらの研修会であるが、非常に実りある第一歩になっているのではないかと感じている。

今後、2カ月に一回、基本第4木曜日に開催を予定している。



青連盟

僧侶とテントサウナ体験

教区が集い

11月13日、教区仏青連盟主催にて鹿児島県いちき串木野市にある【Fukigahama Field Hotel】を会場に「僧侶とテントサウナ体験」を開催した。

始めに、ホテル向かいにある西村寺(川内組)へ参拝し、江上ご住職より、ご自身のサウナ体験を交えながら法話をいただいた。その後、事務局よりサウナについて話をし、ホテルへ移動。それぞれにテントサウナを体験し、心身ともにととのつていただいた。最後に、青年教化指導員の櫻井さんより法話をいただき閉会した。

高校生(30代後半)にかけて15名のご参加をいただいたが、お寺に初めて入られる方もおられ、お寺の内陣を興味深く見る様子が見受けられた。参加者からは、「お寺とテントサウナの非日常的な空間は、とてもリラックスできたと」と好評の声があり、楽しんでいるだけでなく、ととのいながら仏教に触れていただけかと思う。

今後、多くの方が企画していただける内容を企画し、仏青会員の獲得へつなげていきたい。



ピハーク 鹿児島 主催
本派社会福祉推進協議会 共催

公開講座

10月28日、本講座のご講師に、【びっぐすまいる訪問看護ステーション】の管理者であられる柳田千草さんをお迎えし、「いのちに寄り添う訪問看護活動を通して命に向き合う」をテーマにご講話いただいた。

訪問看護師の視点から、患者さんなどのように向き合って接していくのか、事例を通してお話をいただく中で、最悪を想定して最善を尽くし、介護する方の立場からではなく、介護してもらおうご本人とご家族の立場を考えながら、ご本人の希望を出来る限り実現し、生きるお手伝いをされているというお話をお聞かせいただいた。

昨今、新たな地域包括ケアシステムの形として、寺院・僧侶との連携が注目されている。

寺院としてどのようにコミュニケーションの場を設け、命に寄り添っていかれるか。また僧侶としてどう「死」と向き合っているのか。

これまで以上に多職種・地域との連携を密に「看仏連携」を展開していきたい。



第40回靖国問題を考える

みんなの集い開催

令和5年2月11日、『第40回靖国問題を考えるみんなの集い』を本願寺鹿兒島別院で開催いたしました。

ご講師に、中島岳志さん（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）をお迎えし、「萎縮する社会―付度と自主規制はなぜ起こるのか」という講題にてお話しただきました。参加者一同、報道されることのない、監視権力の眼差しの内面化や、それに伴う自主規制の恐ろしさを痛感させられるご講演でした。

鹿兒島「同」宗連結成30年 記念式典・研修会開催

来る、令和5年3月4日（土）13時30分より、『鹿兒島「同」宗連結成30年記念式典・研修会』が本願寺鹿兒島別院にて開催されます。

ご講師の上杉聰さん（市民のための人権大学院・じんけんSCHOLA共同代表）には、「部落と宗教」と題してご講演をいただきます。

30年の歩みを振り返るとともに、宗教界が行ってきた、差別事象や事件について学びを深め、これからの部落差別をはじめとする全ての差別撤廃に向けて行動していくためのものであります。

参加費無料ですので、お誘い合わせのうえにご参加ください。

協賛ご協力のおかげ

本派社会推進連絡協議会鹿兒島支部

世の中には、悩みや苦しみを抱えた多くの方々がいらつしやいます。

仏さまは、その悩みや苦しみを、我がものとして受け止め慈しきをもつて救いの道をお示しくくださいました。
本派社推協鹿兒島支部では、様々な活動や団体への支援を行っております。

災害支援

・ビハール鹿兒島への助成

・本派矯正教化連盟鹿兒島支部への助成

・鹿兒島のちの電話への助成

・高齢者福祉施設へのカレンダー無償配布

・3施設への「大乘」冊子贈呈

これらの活動をさらに充実させるために、皆様方へ協賛のご協力をお願いいたします。

ご協力いただける際は、事務局までご連絡ください。なお、協賛金は1口1,000円（何口でも可）となっております。

鹿兒島別院までご持参いただいても結構でございますのでよろしくお願いいたします。

お問い合わせ

本派社会福祉推進協議会鹿兒島支部

〈担当：藤枝〉

得度許可

東 隅	専徳	白鳥	喬信	R 4.5.25
鹿兒島	妙行	樋之口	洋一	R 4.6.15
鹿兒島	明信	古屋	鋪俊	R 4.10.15
東 隅	蓮成	岩野	淳信	R 4.10.28
東 隅	覺照	平島	露風	R 4.10.28

教師授与

出 水	西恩	竹廣	喜朋	R 4.5.27
出 水	西恩	竹廣	暁道	R 4.5.27
出 水	徳大	池田	智徳	R 4.5.27
北 隅	高陵	加来	眞	R 4.5.27

住職任命

川 内	西村	江上	泰生	R 4.7.6
-----	----	----	----	---------

住職退任

川 内	西村	江上	操子	R 4.7.6
-----	----	----	----	---------

敬 弔

謹んでお悔やみ申しあげます

南 薩	淳厚	衆徒	兼廣	節雄	R 3.12.15
出 水	発願	住職	西	一聲	R 4.5.3
川 内	願生	前坊守	棕	貞子	R 4.5.14
南 島	西光	坊守	上戸	繁子	R 4.5.26
出 水	西恩	前住職	竹廣	護	R 4.6.13
邪答院	源正	前坊守	棕	ミワ子	R 4.6.16
南 隅	西方	坊守	紫雲	五月	R 4.7.5
南 隅	大円	前坊守	三島	悦子	R 4.8.13
出 水	證海	前住職	橋本	一尊	R 4.9.15
川 内	養信	前坊守	石本	ツユ子	R 4.11.13
					93歳
					83歳
					91歳
					47歳
					92歳
					82歳
					88歳
					105歳
					88歳

（敬称略・12月末日現在）